

改札を通りぬけたとき、心臓が、どきどきと、鳴っていた。となり町に住む祖母の家へ、電車を乗りついで、一人で行く。ただそれだけのことなのに、ぼくにとっては、大冒険だった。「気をつけてね。」という母の声を背中に聞きながら、ぼくは、わざと大またで、ホームへと歩いていった。本当は、今すぐ、ふり返りたかった。

電車に乗ると、ぼくは、母からわたされたメモを、何度も見直した。「二つ目の駅で、青い電車に乗りかえ。」という文字を、指でなぞる。まどの外を、見なれた景色が、後ろへ後ろへと流れていく。いつもは、母や父といっしょに見ていたはずのその景色が、今日は、まるでちがって見えた。少しだけ、遠くまで来たような気がした。

ところが、乗りかえの駅で、ぼくは、はたと立ち止まった。ホームには、青い電車が、二つも止まっていたのだ。(どっちだろう……) おねの中で、さっきのどきどきが、大きくふくらんでいく。どちらに乗ればいいのか、分からない。人ごみの中で、ぼくは、一人、取り残されたような気持ちになった。母に電話しようかと、何度も思った。

そのとき、近くにいた駅員さんの姿が、目に入った。声をかけるのは、少し、ゆうきがいった。それでも、ぼくは、思いきって、たずねてみた。「あの……、みどり町へ行くのは、どちらの電車ですか。」駅員さんは、にっこりわらって、「右の電車だよ。あと三分で出るから、急いでね。」と、教えてくれた。その一言で、ちちこまっていた心が、ふっと軽くなった。

無事に、祖母の家の最寄り駅に着いたとき、ホームには、祖母が、手をふって待っていてくれた。その顔を見たしゅんかん、ぼくは、思わず、かけ出していた。「一人で、来られたんだね。」と、祖母は、ぼくの頭を、そっとなでた。たった一時間ほどの道のりだったのに、ぼくは、ずいぶん長い旅をしてきたような気がした。

帰り道のことを考えると、まだ少し、こわい。けれど、今のぼくには、小さな自信のようなものが、芽ばえていた。分からないことがあっても、自分でたずね、自分で決めて、前に進める。そのことを、この初めての一人旅が、ぼくに教えてくれた。まどの外の景色は、来たときよりも、ずっとかがやいて見えた。

School Stock『初めての一人旅』より

(1)「本当は、今すぐ、ふり返りたかった。」とありますが、このときの「ぼく」の気持ちを説明したものとして、最も適切なものを一つ選びましょう。

ア 母に、早く手をふり返したいという、うれしい気持ち

イ 一人旅への不安をかかえながらも、それをおさえ進もうとする気持ち

ウ 母の声がうるさくて、めいわくに思う気持ち
エ 電車におくれそうで、あせっている気持ち

(2) 乗りかえの駅で、「ぼく」が「一人、取り残されたような気持ち」になったのは、なぜですか。文章の言葉を使って書きましょう。

(3) 駅員さんにたずねたあと、「ちちこまっていた心が、ふっと軽くなった」とありますが、それはなぜだと考えられますか。書きましょう。

(4) 祖母の家に着いたとき、「ずいぶん長い旅をしてきたような気がした」のは、「ぼく」にとって、この道のりがどのようなものだったからですか。書きましょう。

(5) この一人旅を通して、「ぼく」が学んだことは何ですか。文章の言葉を使ってまとめましょう。

例えば

「分からないことは、ゆうきを出して人にたずねれば、前に進めるのだと感じた。」

「不安でも、自分で決めて動けば、自信が生まれるのだと学んだ。」

改札を通りぬけたとき、心臓が、どきどきと、鳴っていた。となり町に住む祖母の家へ、電車を乗りついで、一人で行く。ただそれだけのことなのに、ぼくにとっては、大冒険だった。「気をつけてね。」という母の声を背中に聞きながら、ぼくは、わざと大まかで、ホームへと歩いていった。本当は、今すぐ、ふり返りたかった。

電車に乗ると、ぼくは、母からわたされたメモを、何度も見直した。「二つ目の駅で、青い電車に乗りかえ。」という文字を、指でなぞる。まどの外を、見なれた景色が、後ろへ後ろへと流れていく。いつもは、母や父といっしょに見ていたはずのその景色が、今日は、まるでちがって見えた。少しだけ、遠くまで来たような気がした。

ところが、乗りかえの駅で、ぼくは、はたと立ち止まった。ホームには、青い電車が、二つも止まっていたのだ。(どっちだろう……) おねの中で、さっきのどきどきが、大きくふくらんでいく。どちらに乗ればいいのか、分からない。人ごみの中で、ぼくは、一人、取り残されたような気持ちになった。母に電話しようかと、何度も思った。

そのとき、近くにいた駅員さんの姿が、目に入った。声をかけるのは、少し、ゆうきがいった。それでも、ぼくは、思いきって、たずねてみた。「あの……、みどり町へ行くのは、どちらの電車ですか。」駅員さんは、にっこりわらって、「右の電車だよ。あと三分で出るから、急いでね。」と、教えてくれた。その一言で、ちちこまっていた心が、ふっと軽くなった。

無事に、祖母の家の最寄り駅に着いたとき、ホームには、祖母が、手をふって待っていてくれた。その顔を見たしゅんかん、ぼくは、思わず、かけ出していた。「一人で、来られたんだね。」と、祖母は、ぼくの頭を、そっとなでた。たった一時間ほどの道のりだったのに、ぼくは、ずいぶん長い旅をしてきたような気がした。

帰り道のことを考えると、まだ少し、こわい。けれど、今のぼくには、小さな自信のようなものが、芽ばえていた。分からないことがあっても、自分でたずね、自分で決めて、前に進める。そのことを、この初めての一人旅が、ぼくに教えてくれた。まどの外の景色は、来たときよりも、ずっとかがやいて見えた。

School Stock『初めての一人旅』より

(1)「本当は、今すぐ、ふり返りたかった。」とありますが、このときの「ぼく」の気持ちを説明したものとして、最も適切なものを一つ選びましょう。

ア 母に、早く手をふり返したいという、うれしい気持ち

イ 一人旅への不安をかかえながらも、それをおさえて進もうとする気持ち

ウ 母の声がうるさくて、めいわくに思う気持ち
エ 電車におくれそうで、あせっている気持ち

(2) 乗りかえの駅で、「ぼく」が「一人、取り残されたような気持ち」になったのは、なぜですか。文章の言葉を使って書きましょう。

(例) ホームに青い電車が二つ止まっていた、どちらに乗ればよいのか分からず、こまっていたから。

(3) 駅員さんにたずねたあと、「ちちこまっていた心が、ふっと軽くなった」とありますが、それはなぜだと考えられますか。書きましょう。

(例) 声をかけるゆうきを出してたずねたことで、行き先が分かり、こまっていたことが、解決したから。

(4) 祖母の家に着いたとき、「ずいぶん長い旅をしてきたような気がした」のは、「ぼく」にとって、この道のりがどのようなものだったからですか。書きましょう。

(例) 自分一人で、不安やこまったことをのりこえてきた、心にかかる道のりだったから。

(5) この一人旅を通して、「ぼく」が学んだことは何ですか。文章の言葉を使ってまとめましょう。

(例) 分からないことがあっても、自分でたずね、自分で決めて、前に進むことができる、ということ。

例えば

「分からないことは、ゆうきを出して人にたずねれば、前に進めるのだと感じた。」

「不安でも、自分で決めて動けば、自信が生まれるのだと学んだ。」

問1 イ

「大冒険だった」「わざと大またで」歩いたことから、不安をおさえて、気持ちをふるい立たせている様子が読み取れます。

問2 （例）ホームに青い電車が二つ止まっていて、どちらに乗ればよいのか分からず、こまってしまったから。

三つ目の段落に「青い電車が、二つも止まっていた」「どちらに乗ればいいのか、分からない」とあります。

問3 （例）声をかけるゆうきを出してたずねたことで、行き先が分かり、こまっていたことが、解決したから。

自分でゆうきを出して行動し、問題がとけたことで、安心したのです。

問4 （例）自分一人で、不安やこまったことをのりこえてきた、心にのこる道のりだったから。

きよりは短くても、不安や乗りかえのこん難をのりこえた、中身のこい体けんだったことを読み取ります。

問5 （例）分からないことがあっても、自分でたずね、自分で決めて、前に進むことができる、ということ。

最後の段落に「自分でたずね、自分で決めて、前に進める」とあります。これが、ぼくの得た自信です。